

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

奥州市長 倉成 淳

市町村名 (市町村コード)	岩手県奥州市 03215
地域名 (農林業センサスにおける 地域内農業集落名)	衣川 衣里地区 (寺向、張巾、富田、川西、滝の沢、川東、池田、瀬原)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月5日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・中山間地域であり、40～50年前に基盤整備をした圃場もあるが、未整備のため小規模な圃場が多い。(張巾、富田、川西、滝の沢、川東、瀬原)
・一部の担い手に集積が進みつつある(寺向、富田)
・未整備で営農状況が良くない圃場や獣害等の被害がある箇所は集積が進んでいない。(寺向、川西)
・また、農業者や地主の高齢化が進み、管理作業が困難な圃場が増えつつある。(寺向、川東)
・圃場や水路の老朽化もあり、整備が必要な状況である。(張巾、川東)
・次世代を担う若手の農業家もいる。(張巾)
・全体的に小区画な圃場である。基盤整備をした圃場は法面が大きく、傾斜もきついため、草刈りが大変になっている。また、河川沿いの圃場は耕作が難しく、ようやく草刈りをしているのみである。(富田)
・近年イノシシ被害が発生し、年々被害規模が大きくなっている。(張幅、富田、川西、川東、瀬原)
・上記に加え、サギやカモによる食害など多くの有害鳥獣被害が発生している。(瀬原)
・水利環境が悪い圃場もあり、営農条件が良くない。(川西、滝の沢、川東)
・稲作のほかに、リンドウなどの花卉を栽培している農家もいる。(滝の沢)
・地区内にウマやヤギ、ニワトリ等を飼育している人がいる。(富田)

【地域の基礎的データ】

・法人:個人担い手:9経営体
・主な生産品目…水稻、リンドウ、花卉、肉用牛(肥育、繁殖) など

(2) 地域における農業の将来の在り方

・水稻作付を主とするほか、土地利用型農家への集積を進め、農用地の継続的な管理を継続する。また、日本型直接支払をフル活用し、農地集積者と共同活動を行い、地域の農業施設の維持保全に努める。(寺向)
・不在地主の圃場や所有者が耕作できなくなった農地の集約や集積を進め、放棄される農地をなくす。(張巾)
・基盤整備を進め、効率的な営農環境を整え、若者など次世代の担い手に引き継いでいく。(張巾、富田、川西、滝の沢、瀬原)
・圃場の基盤整備を進めるとともに、畑作への転換など多様で持続的な農業を目指す。また、農地の集積も進め、効率的な営農環境をつくる。(川東)

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	374.9 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	374.9 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方

・中山間地域等直接支払の対象農用地を含む農振農用地内農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、耕作が難しい区域は保全・管理を行う区域とする。

注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針

・引き続き、地域の中心となる経営体への集積を行う。(寺向)
・離農、規模縮小が生じた場合には、近隣の農業者を中心に集積、集約を図り、農作業委託で農地をできる限り耕作する。(張巾、富田、川西、滝の沢、瀬原)
・基盤整備や水利環境を整備することによって、担い手を確保しながら、農地の集積、集約を図り、農作業委託で農地をできる限り耕作する。(川東)

(2) 農地中間管理機構の活用方針

・利用権の設定に関しては、農地中間管理機構を利用するが、農用地等のマッチング等は期待していない。(寺向)
・これまでも所有者が分かる農地については対応を進めてきた。今後も積極的に活用し、放棄地を発生させないように取り組む。(張巾)
・活用する予定はないが、メリットやデメリットなども含めて学びを進める。(富田、滝の沢)
・地域計画区域内の農地の貸借契約は、農地中間管理機構を介して権利設定し、所有者の貸付意向と担い手の経営意向を調整することで、担い手への面的集積を促進する。(川西、川東、瀬原)

(3) 基盤整備事業への取組方針

・農地耕作条件改善事業等の区画拡大を活用し、農業基盤の整備を行い集積を図る。(寺向)
・基盤整備を行い、水利環境の確保や区画拡大等により農作業の効率化を図ることで、将来にわたる担い手確保につなげる。(張巾、富田、川西、川東、瀬原)40aの圃場を目指す。(張巾)
・基盤整備に取り組む計画はない。(滝の沢)

(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針

・近隣集落の入り作担い手等と連携を深める。(寺向)
・農地の集約、集積を進めた上で、担い手の法人化等安定的な経営体制により、将来にわたり担い手を確保する。(張巾、富田、滝の沢、瀬原)
・基盤整備により営農環境を整え、多様な担い手の確保を進める。(川西、川東)

(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	☐	③スマート農業	☐	④輸出	☐	⑤果樹等
☐	⑥燃料・資源作物等	☒	⑦保全・管理等	☐	⑧農業用施設	☐	⑨その他		

【選択した上記の取組方針】

①近年被害が広がっているイノシシを中心に、電気柵や括り罠の設置、緩衝帯を整備するなど、様々な対策に取り組んでいく。(張巾、富田、滝の沢、川西、川東)

イノシシ対策のほか、サギやカモなどの鳥害対策も進める。(瀬原)

③ドローン防除などに取り組んでいる人もおり、今後も導入や面積の拡大を進める。自動草刈り機等の導入を検討する。(張巾、富田、瀬原)

ドローンやヘリ防除に今後も取り組むが、効率的に実施するためには圃場面積を広げる取り組みも必要である。GPSトラクターの導入も検討する。(川西)

若者の営農を促進するためにも、ドローン防除などスマート農業を導入する。(川東)

⑦多面的機能保全活動組織の積極的な活動により、土地所有者と担い手が共同で農用地、水路、畦畔、農道等の定期的な点検や維持保全作業等を行い、保全管理に取り組む。(張巾、富田、川西、滝の沢、瀬原)

日本型直接支払交付金等を活用し、引き続き、農地・施設の管理を行う。(寺向)

⑧昭和50年代の基盤整備箇所は老朽化が進みつつある。未整備箇所においても水利環境が悪いために耕作できない状況であり、基盤整備を行っていく。(川東)

土地改良区や住民自治とも連携し、多様な主体により、排水路のごみの撤去を進める。(瀬原)